

## 2018年度 海外ミッション スリランカ視察団日程表

スケジュール	
◆ 1日目 ◆ 10月28日 (日)	
22:10	シンガポール航空SQ468便 チャンギ空港出発
23:55	バンダラナイケ国際空港到着
	ホテル到着 (ヒルトンコロombo宿泊)
◆ 2日目 ◆ 10月29日 (月)	
	ホテルにて各自朝食
08:30	専用車にてホテル出発
09:15	EXPOLANKA 様訪問 -スリランカ日本商工会様 ブリーフィング -EXPOLANKA 様 ブリーフィング及び倉庫見学
11:00	EXPOLANKA 様出発
13:30	YKK LANKA (PVT) LTD 様到着、昼食
14:15	YKK LANKA (PVT) LTD 様 ブリーフィング及び工場見学
16:00	コロombo市内へ移動
18:00	ホテル到着
19:00	スリランカ日本商工会様との交流会 (会場 ヒルトンホテル内)
21:00	交流会終了後、解散  (ヒルトンコロombo宿泊)
◆ 3日目 ◆ 10月30日 (火)	
	ホテルにて各自朝食、チェックアウト
09:30	専用車にてホテル出発
10:00	COLOMBO DOCKYARD 様 (尾道造船様) 訪問 ブリーフィング及びドックヤード見学
11:30	COLOMBO DOCKYARD 様出発
12:00	昼食
13:00	スリランカ投資委員会 (BOI) 様訪問 ブリーフィング
14:30	キャンデイへ移動
20:00	ホテル到着後、夕食  (ザ・グランドキャンディアン宿泊)

スケジュール	
◆ 4日目 ◆ 10月31日 (水)	
	ホテルにて各自朝食、チェックアウト
08:00	専用車にてホテル出発
09:30	ノリタケ様ご訪問 ブリーフィング及び工場見学
12:00	ノリタケ様出発
12:30	昼食
13:30	キャンデイ市内へ移動
14:30	キャンデイ市内視察 (仏齒寺、キャンデイ湖から市内展望、 ローカルマーケット見学)
16:00	コロomboへ移動
20:00	夕食
22:30	空港へ移動
◆ 5日目 ◆ 11月1日 (木)	
00:45	シンガポール航空SQ469便 バンダラナイケ国際空港出発
07:30	チャンギ空港到着  各自入国し、解散

## 2018年度海外ミッション

## スリランカ民主社会主義共和国視察団

IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.

桑田 知之

2018年度JCCIの経済視察として10月28日から11月1日までスリランカのコロombo、キャンディを訪問しましたのでご報告いたします。今回の視察団は19名、ほぼ全員が初めてのスリランカ訪問となりました。見聞きしたことの多くが新鮮な驚きであると共に、古都キャンディやアヌラダプラを中心とするシンハラ人の文化と、ジャフナを中心とするタミル人の文化、2つの伝統文化に基づく、スリランカの素晴らしさを認識し、素朴で温厚な国民性に魅了された、という感想を参加メンバーの皆さんが持たれたと思います。

経済視察としての観点では、社会主義的な色彩が濃い国家介入の影響、福祉や分配を重視する経済運営を続けたことによる財政面の脆弱さと慢性的な貿易赤字、非効率な経済運営などの課題がある一方で、スリランカの地政学的な位置づけ、すなわち、アジアと中東・アフリカの中間に位置するシーレーン上の戦略的要衝として、ここから、両地域を視野に入れるハブ機能を構築するという可能性をみることができ、今後の活用が期待できるものでした。また内戦後から経済を支えてきた豊富な観光資源などについても、今後成長が期待されることを、視察を通して理解することができました。

スリランカを視察先に選んだのは、借款の対価として99年間の港湾運営権を中国に提供したハンバントタ港を実際に見て、中国の一带一路を肌で感じたいとの思いからでしたが、結果的には、日程の関係で視察をすることはできませんでした。一方、後述のスリランカ投資委員会（BOI）訪問時に、今開発中のコロombo・ポートシティ・プロジェクトを一望に眺め、中国資本による湾岸開発を目の当たりにして、現状、中国が最大の援助国となっていることを肌で感じる事ができました。

スリランカはシンガポールから直行便で約4時間かかります。10月28日の夜に出発し、3泊5日のスケジュールで、EXPOLANKA様（佐川急便様）、YKK様、COLOMBO DOCKYARD様（尾道造船様）、スリランカ投資委員会（BOI）様、ノリタケ様を訪問させていただき、併せて、スリランカ日本商工会様との意見交換会及び懇親会、世界遺産キャンディ視察と盛りだくさんの日程でした。EXPOLANKA様では、ハブ機能の将来性、YKK様ではスリランカでの工業製品の製造の可能性、COLOMBO DOCKYARD様では造船や重工業への対応能力、ノリタケ様ではスリランカのコ

ロンボ地区での労働者の勤勉さを肌で感じる事ができました。またBOI様からの説明では、上記のハンバントタ港を国際物流のハブ機能の中心に据える予定との説明がありました。これらのように、各訪問先でご対応頂いた人数、情報量、トピック等々の面でも大変充実した内容でありました。

スリランカ民主社会主義共和国は、北海道の約0.8倍の国土面積に、約2,000万人が住み、仏教徒70%、ローマカトリック教徒10%、ヒンドゥー教徒10%、イスラム教徒9%と様々な宗教を信仰する人が共存しています。30年近く続いた紛争が2009年に終結したことを受け、復興需要を中心とした内需拡大が成長を牽引しています。一人当たりのGDPはUS \$4085とASEANに近い経済レベルを誇り、2017年の実質GDP成長率は3.1%と堅調な成長を維持しております。

1985年にコロomboからスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテに首都が遷都されたものの、現在でも国内最大の経済都市は、コロomboとなっています。光り輝く島という意味を持つスリランカは、別名「インド洋の真珠」と呼ばれ、熱帯気候に区別されるその国土には、豊かな自然が広がり、世界遺産が合計8つ（文化遺産6件、自然遺産2件）健在しています。この豊富な観光資源は、海外からの観光客を呼び、2017年には200万人を超える旅行者が当地を訪れるなど、スリランカの経済を支えています。

海外からの直接投資では、中国からの投資が活発で投資額では628.5百万ドル（36%）、香港296.0百万ドル（17%）、次いでインドからは173.8百万ドル（10%）と、日本からの投資額46.0百万ドル（3%）とは桁の違う額の投資が行われています。日系企業としては、製造業、商社・サービス業、建設業などが進出していますが、スリランカ日本商工会の加盟企業数は81社、在留邦人は約800名と、今後のポテンシャルを考えると未だ少ないレベルにあります。

貿易の観点から見てみますと、米国2,909百万ドル（26%）、英国1,036百万ドル（9%）、インド691百万ドル（6.1%）が輸出先として軒を連ねる一方で、輸入先は、インド4,527百万ドル（22%）、中国3,955百万ドル（19%）、アラブ首長国連邦1,697百万ドル（8%）に加え、シンガポール1,352百万ドル（6%）、日本1,038百万ドル（5%）と続いています。日本からは、自動車、一般機械、電気機器、織物用糸及び繊維製品、プラスチックなどの物品が輸出されており、金額は増加傾向にあります。

スリランカ投資委員会の方とお話をしていても、日本に対する期待感を強く感じました。日本人の入国者は45,000人近くに上り、両国間には大きな政治的懸案もなく、良好な関係が続いていることも考えると、今後、経済面での日本との結びつきもさらに発展することを期待したいと思います。

最後になりますが、今回の視察旅行を実りあるものにしていただいた事務局をはじめ、在スリランカ日本人商工会様、JETRO様などの関係者の方々、お忙しい中時間を割いて頂いた訪問先各位にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 事務局長作成レポート

シンガポール日本商工会議所  
清水 僚介

JCCIでは、2018年10月28日から11月1日にかけてスリランカのコロombo及びキャンディを訪問した。

スリランカは、インドの南に位置する島国で、65,000km<sup>2</sup>程（北海道の約0.8倍）の国土に約2,100万人の人口を擁する。1983年から2009年まで続いた内戦の影響で、地方の開発はまだ進んでいないが、識字率は95%以上、一人当たりGDPも4,000ドルを超えるなど、成長のポテンシャルを抱えた国でもあり、8つの世界遺産が年間200万人以上（うち日本人は4万人程度）の観光客を呼び込んでいる。コロomboから地方にかけて、道路を中心にインフラがまだ十分には整っておらず、車での移動は非常に時間がかかるものの、空港からコロombo市内への道は、中国の支援を受けて高速道路が整備されており、コロombo沖合では、中国企業による大規模な開発が進められるなど、当国における中国の存在感の大きさを目の当たりにする機会ともなった。

### スリランカ日本人商工会 菅会頭によるブリーフィング

スリランカ日本人商工会 菅会頭から、スリランカの基礎情報の他、経済動向などに関するブリーフィングを受けた。スリランカ日本商工会は、1987年に設立され、現在、81社が入会、三菱商事コロombo事務所長の菅氏が会頭を務める。

スリランカは洋上航路の中心として、現在、成長途上の国であり、コンテナ取扱量は、インドのジャワハルネルー港（ムンバイ）を超え、南西アジア最大である。ビジネス面では、内戦の終結後、治安が回復し、高成長率を維持しており、2017年も5%近いGDP成長率を記録している。一人当たりGDPは4,000ドルを超える一方で、ショッピングモールやコンビニエンスストアがなく、流通分野は出遅れている感が否めない。一方、観光分野は、2009年には45万人だった観光客が2016年には200万人を超えるなど、順調な成長を続けている。

スリランカは、物流拠点としての立地や、新日国であること、教育水準が高い人材、安定した治安、豊富な観光資源、宗教的な中立性、そして、高い一人当たりGDPを背景とする高い市場性など、多くの魅力を擁する。一方で、日系企業の進出に於ける課題としては、国の持つ財政赤字や政権・政策決定の安定性、透明性などが不十分であること、国内産業の保護を意識した産業政策などが挙げられる。

政権については、10月26日にシリセナ大統領がウィクラマシンハ首相を解任し、前大統領のラジャパクサ氏を後継の首相に据えるると宣言するなど、急展開を見せており、今後、経済活動にも影響が出てくるものと思われる。

### EXPOLANKA訪問

佐川急便を傘下に持つSGホールディングが出資をするEXPOLANKAを訪問し、施設見学を行った。

EXPOLANKAは1978年に主に農産物の輸出支援を目的に設立され、2014年からSGホールディングが出資を開始。現在では、スリランカのみならず、インド、パキスタン、バングラデシュなどに製造拠点を持つ欧米系のアパレルブランドの製品輸出を手掛けており、輸送だけではなく、包装、検品、保管など、機能の拡充に取り組んでいる。

尚、輸送において、周辺国ほどの渋滞はコロombo近郊ではないものの、国内陸路のレベルは高くはない、とのことであった。

### YKK LANKA訪問

YKKが出資をするYKK LANKAを訪問し、施設見学を行った。

YKKは1980年にシンガポール拠点を通じてコロombo駐在員事務所を設立し、縫製品市場の成長に応じて、1999年にコロomboから車で2時間ほどの距離にあるシータカワ輸出加工区（SEPZ）内にファスナー工場を設立した。SEPZは、JICAの円借款事業として整備されたものだが、進出している日系企業は、YKK LANKAのみである。尚、建築用の製品を手掛けるYKK APの事業は、同工場では手掛けていない。同社は現在、スリランカ内に315名の従業員を抱え、工場には280名が在籍する。欧米アパレルブランドの注文を受けたスリランカの縫製業者へ、ファスナーを卸しており、年間で1億本のファスナーの製造をおこなっている。

離職率は10%を下回り、傾向として女性は結婚、出産すると辞めていく。コロomboであれば、共働きの家庭もあるが、地方に行くと、男性のみが働く家庭も多い。

## スリランカ日本商工会との懇親会

スリランカ日本商工会の幹部企業等から32名が参加し、本視察団参加者との交流を行った。現地での実経験に基づく話を聞くことのできる貴重な機会となった。

## Colombo Dockyard訪問

尾道造船が出資をするColombo Dockyardを訪問し、施設見学を行った。

同社は、尾道造船が過半数の株を持ち、他の株主は政府年金機関、港湾局などである。3,000人ほどの従業員を擁し、年商は100億円程度にのぼる。元々は、1906年に英王国コロombo修繕所として、主に海軍艦艇の修繕などをおこなっていた。スリランカ独立後は、政府系機関の管理下に置かれた後、民営化されたが、経営が悪化し、1993年に尾道造船が買収した。

当地で事業を行う強みとしては、西南アジア、アフリカを見据えた地政学的な利点に加え、ローカル従業員の教育レベルの高さと採用のしやすさ、新日国家であること、スリランカ有数の輸出企業として税制優遇を受けられることなどが挙げられる。

一方で、弱み・課題としては、旧態依然たる労働慣行による生産性の悪さ、裾野産業が弱く、加工外注先がないため、内製化が必要とされること、外資企業への土地取得規制などがある。社内に労働組合は3団体存在しているが、いずれの団体とも良好な労使関係を維持している。

同国でビジネスをする上で、賃金の高さは新規参入しづらい要因となっている。

同社としては、今後、“南アジアにおける先進重工業メーカー”を目指し、新分野も含めた事業展開を見据えている。

## BOI (Board of Investment of Sri Lanka)

BOIは1978年、外国からの投資窓口と輸出加工区の運営を目的に設置された。スリランカの強みとして、人材の能力の高さ、近隣及び欧州市場、アフ

リカ諸国へのアクセスの容易さに加え、輸入資材・部品の関税等の免税措置などが挙げられる。開発途上国のためのスキームである一般特惠関税制度(GSP)により、日本やEUなどの先進国への特定輸出製品の関税率が免除、もしくは軽減されることに加え、シンガポールとのFTAは本年5月に発効されるなど、輸出を促進する環境が整いつつある。また、スリランカには水深の深い港があり、遠浅の港が多いインドへの積み荷を、スリランカで積み替えた上で輸送する動きもある。

コロomboの沖合では、中国の投資により、コロomboポートシティー開発計画が進められており、商業地区、住宅部分、研究開発施設、レクリエーション施設等を含むエリアが2041年に最終完成予定である。尚、総面積は269haに及び、うち、110haを中国港湾C.H.E.C Prt City (Pvt) Ltdが占め、残りの159haをスリランカ政府が整備することになっている。

## Noritake Lanka Porcelain訪問

ノリタケが設立したNoritake Lanka Porcelainを訪問し、工場見学を行った。

コロomboから車で4～5時間ほどのマータレに工場を持ち、コロombo市内にも事業所を持つ同社はスリランカ国内に合計1,200名ほどの従業員を擁する。1972年にノリタケが25%を出資する形で、政府系の公団と共同で同社を設立、当初は米国向け洋食器の輸出を主に行っていたが、1999年にノリタケが100%出資する子会社とし、2004年から日本向けの製造を開始した。日本で流通するノリタケ製食器の9割以上をスリランカで製造しており、軽く、薄く、割れづらい食器の開発にも取り組んでいる。

政権が再び中国寄りとなるリスクをはらみながらも、コロombo市内はホテルの建設ラッシュが始まっており、今後流通分野の厚みも増していだろう。豊富な観光資源を生かすインフラが整えば、外国人旅行者が大幅に増加することが容易に予想される。また、これから日本企業が中東やアフリカの市場へより目を向けていくことになれば、インド洋における中継地として、ニーズが高まる可能性もあり、今後、政権の動向も含めて目を離せない地域になるだろう。

<スリランカ視察 写真>



EXPOLANKA HOLDINGS PLC様



EXPOLANKA HOLDINGS PLC様 工場見学の様子



(左から) YKK LANKA 石田様、高橋様、長畑様



YKK LANKA(PVT) LTD様



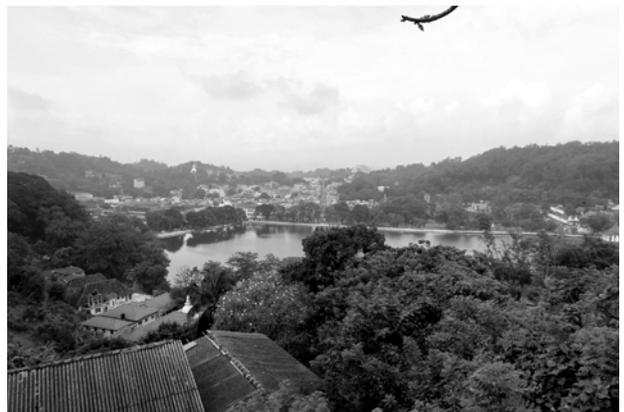
スリランカ日本商工会との交流会



スリランカ日本商工会 菅会頭と桑田会頭



交流会の様子



キャンデイ湖とキャンデイの街並み



COLOMBO DOCKYARD PLC 竹原様



COLOMBO DOCKYARD PLC様 施設見学



スリランカ投資委員会(BOI)様との意見交換



スリランカ投資委員会(BOI)様



NORITAKE LANKA PORCELAIN(PVT) LTD 様



NORITAKE LANKA PORCELAIN(PVT) LTD での  
ブリーフィング



キャンディ市内のマーケット



仏歯寺にて